

平成30年度第3四半期

厚生年金保険給付組合積立金 管理及び運用実績の状況

目次

(地方共済事務局)

- ・平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の管理状況・・・・・・・・・・P 7

目次

（団体共済部）

| | |
|-------------------------------|-----|
| ・平成30年度 第3四半期運用実績（概要） | P11 |
| ・平成30年度 市場環境（第3四半期）① | P13 |
| ・平成30年度 市場環境（第3四半期）② | P14 |
| ・平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の資産構成割合 | P15 |
| ・平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の運用利回り | P16 |
| ・（参考）前年度 厚生年金保険給付組合積立金の運用利回り | P17 |
| ・平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の運用収入の額 | P18 |
| ・（参考）前年度 厚生年金保険給付組合積立金の運用収入の額 | P19 |
| ・平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の資産の額 | P20 |
| ・用語解説（50音順）① | P21 |
| ・用語解説（50音順）② | P22 |

地方共済事務局

平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の管理状況

積立金の資産残高は、以下のとおりとなっております。

| | 平成29年度 | 平成30年度 | | | |
|----------|--------|--------|-------|-------|-----|
| | | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 年度末 |
| 資産残高(億円) | 1,142 | 794 | 1,340 | 1,043 | — |

地方共済事務局の積立金は、地方公務員共済組合連合会からの交付金を受けるため順次信託による委託運用資産から給付対応資産（年金給付に対応するために必要な資産）への振り替えを行ってきたところであり、平成28年12月において積立金は全額給付対応資産となり、現在は全額を短期資産として保有しています。なお、積立金については年度途中に年金の支給に充てています。

上記資産に係る第3四半期の収益は、以下のとおりとなっております。

| | 平成29年度 | 平成30年度 | | | | |
|---------|---------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 収益額(千円) | 360,283 | 222 | 3,958 | 30,699 | — | 34,879 |
| 収益率(%) | 0.33 | 0.00 | 0.00 | 0.03 | — | 0.04 |

第3四半期の収益額30,699千円のうち28,471千円は、オリンパス（株）に係る損害賠償請求訴訟に関する和解金です。

※情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。

(注1) 収益額は実現収益額をいい、収益率は実現収益率をいいます。

(注2) 実現収益額は、売買損益及び利息・配当金収入等です。

(注3) 実現収益率は、運用成果を測定する尺度の一つであり、売買損益及び利息・配当金収入等の実現収益額を元本(簿価)平均残高で除した元本(簿価)ベースの比率です。

团体共济部

平成30年度 第3四半期運用実績（概要）

運用収益額 ▲ 7 1 億 4 4 百万円 ※総合収益額
 (第3四半期) + 2 億 1 7 百万円 ※実現収益額

運用利回り ▲ 8 . 0 7 % ※修正総合収益率
 (第3四半期) + 0 . 2 7 % ※実現収益率

運用資産残高 7 9 6 億円
 (第3四半期末)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断する必要があります。

総合収益額は、各期末時点での時価に基づく評価であるため、評価損益を含んでおり、市場の動向によって変動するものであることに留意が必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注3) 実現収益額は、売買損益及び利息・配当金収入等です。

平成30年度 市場環境 (第3四半期) ①

【各市場の動き（平成30年10月～平成30年12月）】

国内債券：10年国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。10月前半に米金利の大幅上昇を受けて0.15%台に上昇しましたが、世界的な株安を背景にリスク回避姿勢が強まると低下に転じ、年末には0.00%をつけました。

国内株式：国内株式は大幅下落しました。10月前半に円安による業績改善期待の高まりや米中貿易摩擦懸念の緩和から日経平均株価は一時24,448円まで上昇しました。その後、米中貿易摩擦懸念の再燃や米株安、世界景気減速懸念が強まったことなどをを受けて下落し、年末には一時19,000円割れとなるなど大きく下落しました。

外国債券：米国10年国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。10月前半に米中貿易摩擦懸念の緩和や良好な米経済指標などを受け3.25%台まで上昇しました。その後、米中貿易摩擦懸念の再燃や米株安などから低下に転じ、世界景気減速懸念が強まったことなども受け、年末にかけて2.6%台に低下しました。ドイツ10年国債利回りは、米金利低下や世界景気減速懸念が強まったことなどから低下しました。

外国株式：米国株式は大幅下落しました。10月前半にNAFTA再交渉合意や米中貿易摩擦懸念の緩和などが好感されNYダウは史上最高値を更新したものの、米中貿易摩擦懸念の再燃や米金利上昇などを受け下落に転じました。その後、世界景気減速懸念やFRBの利上げ継続姿勢などから下落を続け、年末にかけて22,000ドル割れするなど大きく下落しました。ドイツ株式は、米株安や欧州景気減速懸念などから下落しました。

外国為替：ドル/円は円高となりました。10月前半に良好な米経済指標などを受け114円台に上昇したものの、その後は世界的な株安や世界景気減速懸念でリスク回避姿勢が強まり110円割れまで円高が進みました。ユーロ/円はリスク回避姿勢が強まったことから円高となりました。

【ベンチマーク収益率】

| | 平成30年10月 ～平成30年12月 |
|---|-----------------------|
| 国内債券 NOMURA-BPI総合 | 1.36% |
| 国内株式 TOPIX(配当込み) | -17.60% |
| 外国債券 FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) | -2.49% |
| 外国株式 MSCI ACWI (除く日本、円ベース、配当込み) | -15.50% |

【参考指標】

| | | H30年9月末 | H30年10月末 | H30年11月末 | H30年12月末 |
|------|--------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 国内債券 | (10年国債利回り) (%) | 0.13 | 0.12 | 0.09 | 0.00 |
| 国内株式 | (TOPIX配当なし) (ポイント) | 1,817.25 | 1,611.46 | 1,667.45 | 1,494.09 |
| | (日経平均株価) (円) | 24,120.04 | 21,457.29 | 22,351.06 | 20,014.77 |
| 外国債券 | (米国10年国債利回り) (%) | 3.06 | 3.12 | 2.99 | 2.68 |
| | (ドイツ10年国債利回り) (%) | 0.47 | 0.37 | 0.31 | 0.24 |
| 外国株式 | (NYダウ) (ドル) | 26,458.31 | 24,874.64 | 25,538.46 | 23,327.46 |
| | (ドイツDAX) (ポイント) | 12,246.73 | 11,287.39 | 11,257.24 | 10,558.96 |
| 外国為替 | (ドル/円) (円) | 113.60 | 112.76 | 113.55 | 109.75 |
| | (ユーロ/円) (円) | 131.92 | 128.12 | 128.57 | 125.53 |

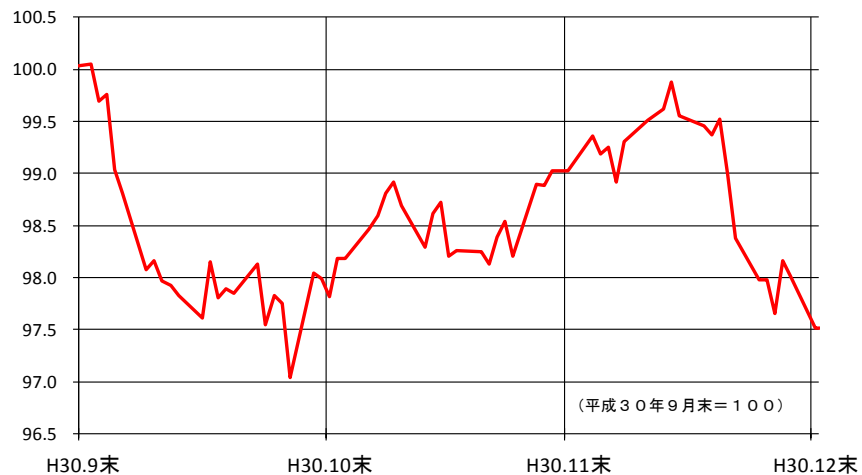
平成30年度 市場環境 (第3四半期) ②

ベンチマークインデックスの推移 (平成30年10月～平成30年12月)

【国内債券】



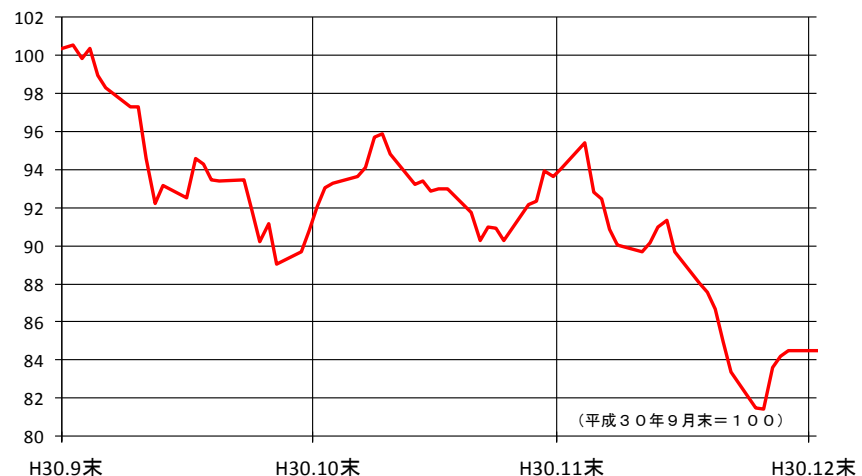
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】

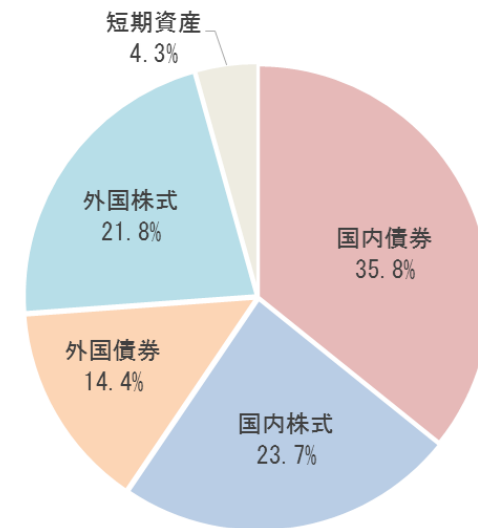


平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

| | 平成29年度 年度末 | 平成30年度 | | | |
|------|---------------|--------|--------|--------|-----|
| | | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 年度末 |
| 国内債券 | 34.1 | 33.4 | 31.2 | 35.8 | — |
| 国内株式 | 25.1 | 25.9 | 25.4 | 23.7 | — |
| 外国債券 | 12.4 | 13.5 | 13.0 | 14.4 | — |
| 外国株式 | 19.9 | 22.3 | 22.8 | 21.8 | — |
| 短期資産 | 8.4 | 5.0 | 7.6 | 4.3 | — |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | — |

第3四半期末 運用資産別の構成割合



(注1) 基本ポートフォリオは、国内債券35% (±15%)、国内株式25% (±14%)、外国債券15% (±6%)、外国株式25% (±12%)です (括弧内は、許容乖離幅)。

ただし、給付等の対応のため、短期資産を保有することができることとしています。

(注2) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注3) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しております。

平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の運用利回り

○平成30年度第3四半期の修正総合収益率は、▲8.07%となりました。なお、実現収益率は、0.27%です。
 ○資産別の修正総合収益率については、国内債券が1.33%、国内株式が▲17.54%、外国債券が▲2.44%、外国株式が▲15.53%となりました。

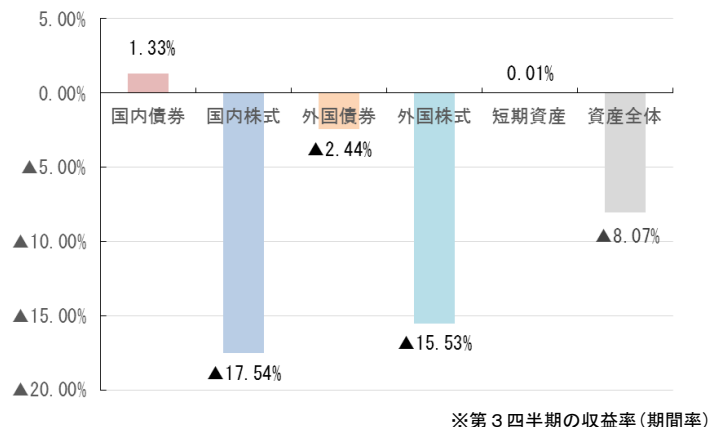
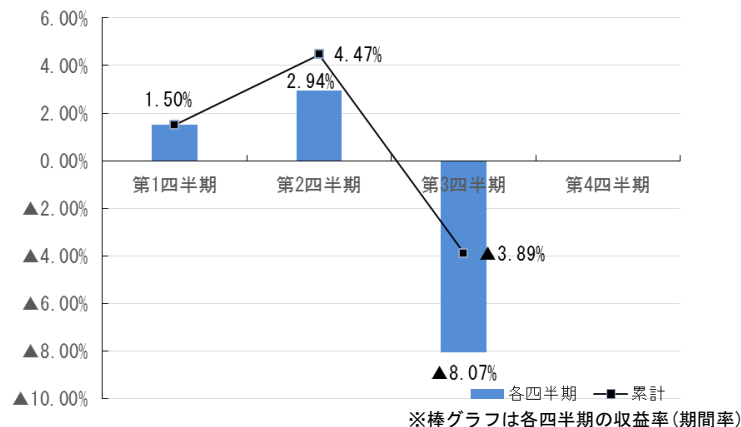
(単位：%)

| | 平成30年度 | | | | |
|---------|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 実現収益率 | 0.46 | 0.50 | 0.27 | — | 1.23 |
| 修正総合収益率 | 1.50 | 2.94 | ▲8.07 | — | ▲3.89 |

(単位：%)

| | 平成30年度 | | | | |
|---------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 修正総合収益率 | 1.50 | 2.94 | ▲8.07 | — | ▲3.89 |
| 国内債券 | 0.20 | ▲0.88 | 1.33 | — | 0.64 |
| 国内株式 | 1.06 | 5.85 | ▲17.54 | — | ▲11.70 |
| 外国債券 | 0.74 | 1.44 | ▲2.44 | — | ▲0.34 |
| 外国株式 | 5.13 | 7.07 | ▲15.53 | — | ▲5.13 |
| 短期資産 | 0.01 | 0.00 | 0.01 | — | 0.02 |

- (注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。
- (注2) 「年度計」は平成30年第3四半期までの収益率です。
- (注3) 収益率は、運用手数料控除後のものです。
- (注4) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
- (注5) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。



(参考) 前年度 厚生年金保険給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

| | 平成29年度 | | | | |
|---------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 実現収益率 | 0.40 | 0.56 | 0.38 | 0.47 | 1.80 |
| 修正総合収益率 | 3.06 | 2.62 | 3.55 | ▲2.94 | 6.25 |

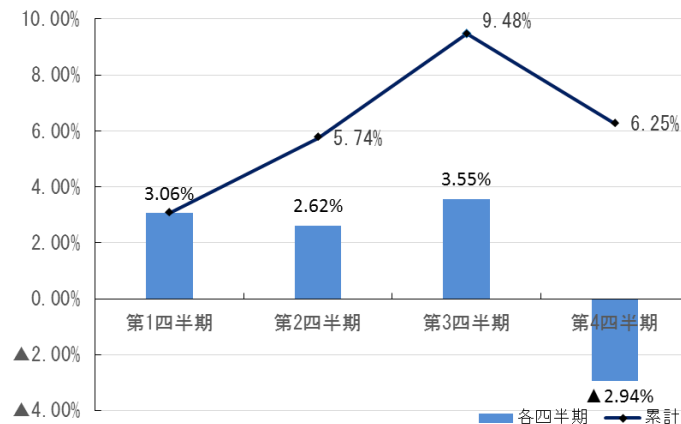
(単位：%)

| | 平成29年度 | | | | |
|---------|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 修正総合収益率 | 3.06 | 2.62 | 3.55 | ▲2.94 | 6.25 |
| 国内債券 | 0.06 | 0.31 | 0.33 | 0.36 | 1.05 |
| 国内株式 | 6.79 | 4.88 | 8.65 | ▲4.64 | 15.68 |
| 外国債券 | 4.78 | 2.47 | 1.32 | ▲4.15 | 3.70 |
| 外国株式 | 5.25 | 5.55 | 5.58 | ▲6.45 | 9.60 |
| 短期資産 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.04 |

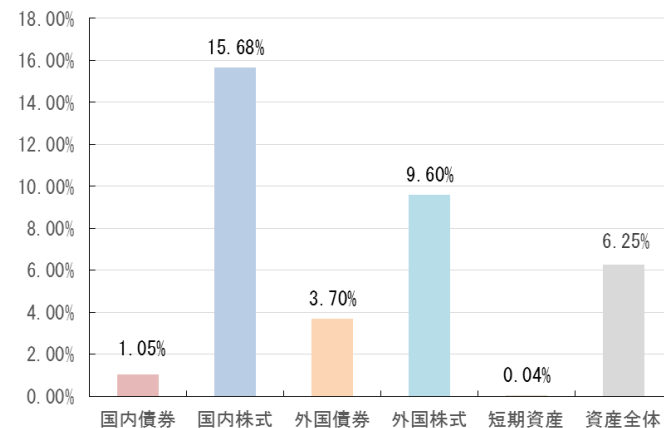
(注1) 「年度計」は各四半期の期間率です。

(注2) 収益率は、運用手数料控除後のものです。

(注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。



※棒グラフは各四半期の収益率(期間率)



※「年度計」の収益率(期間率)

平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の運用収入の額

○平成30年度第3四半期の総合収益額は、▲71億44百万円となりました。なお、実現収益額は、2億17百万円です。
 ○資産別の総合収益額については、国内債券が3億74百万円、国内株式が▲40億31百万円、外国債券が▲2億86百万円、外国株式が▲32億1百万円となりました。

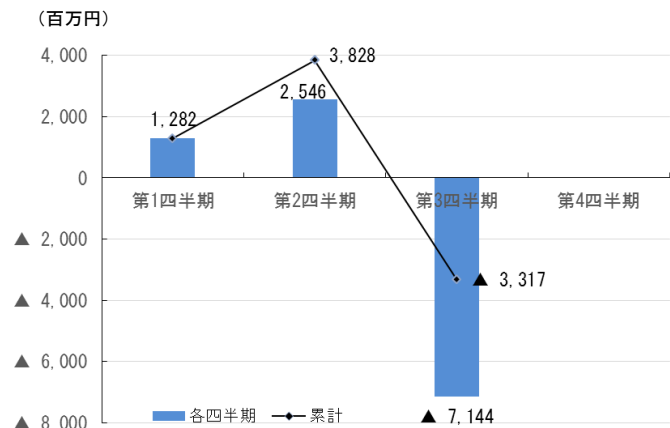
(単位：百万円)

| | 平成30年度 | | | | |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 実現収益額 | 363 | 403 | 217 | — | 983 |
| 総合収益額 | 1,282 | 2,546 | ▲7,144 | — | ▲3,317 |

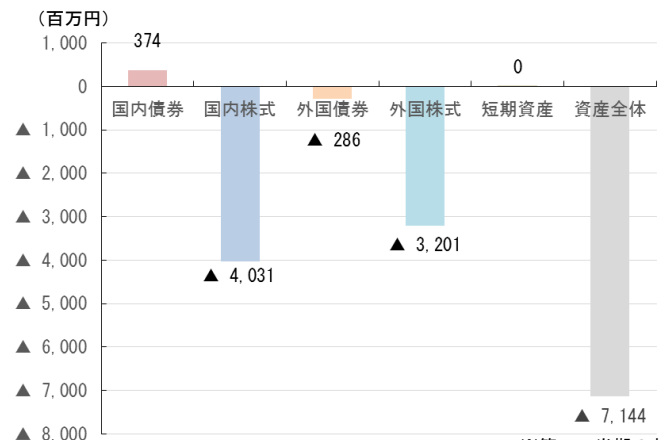
(単位：百万円)

| | 平成30年度 | | | | |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 総合収益額 | 1,282 | 2,546 | ▲7,144 | — | ▲3,317 |
| 国内債券 | 59 | ▲249 | 374 | — | 183 |
| 国内株式 | 231 | 1,271 | ▲4,031 | — | ▲2,529 |
| 外国債券 | 82 | 166 | ▲286 | — | ▲38 |
| 外国株式 | 909 | 1,358 | ▲3,201 | — | ▲934 |
| 短期資産 | 0 | 0 | 0 | — | 1 |

- (注1) 「年度計」は平成30年度第3四半期までの収益額です。
- (注2) 収益額は、運用手数料控除後のものです。
- (注3) 実現収益額は、売買損益及び利息・配当金収入等です。
- (注4) 総合収益額は、実現収益額に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
- (注5) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
- (注6) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。



※棒グラフは各四半期の収益額



※第3四半期の収益額

(参考) 前年度 厚生年金保険給付組合積立金の運用収入の額

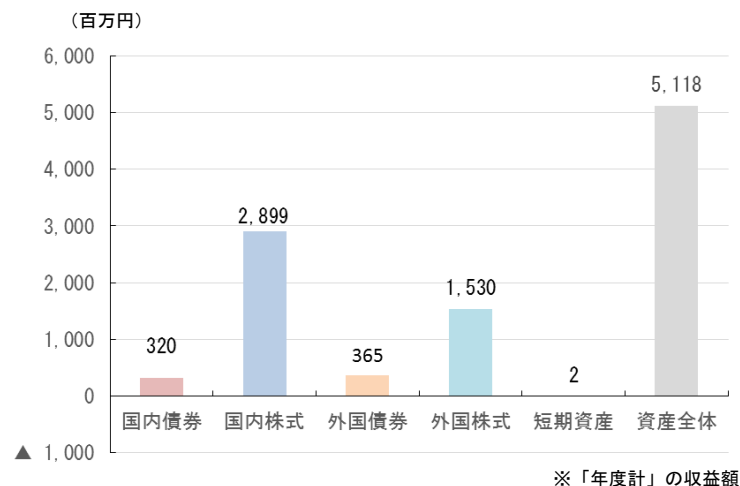
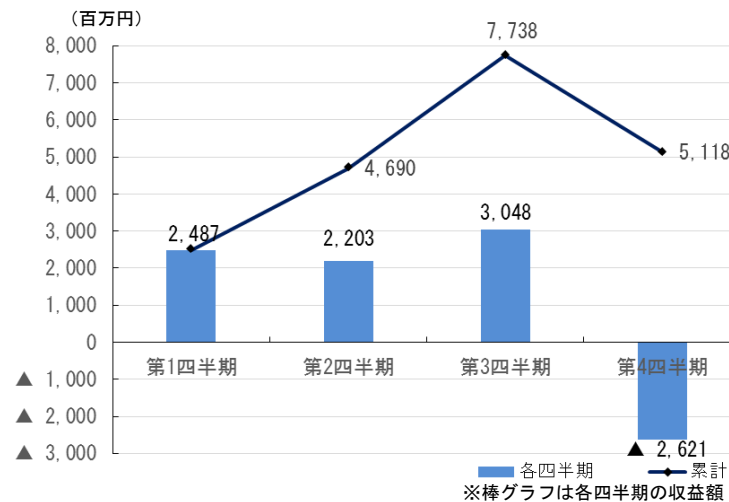
(単位：百万円)

| | 平成29年度 | | | | |
|-------|--------|-------|-------|--------|-------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 実現収益額 | 319 | 445 | 300 | 375 | 1,438 |
| 総合収益額 | 2,487 | 2,203 | 3,048 | ▲2,621 | 5,118 |

(単位：百万円)

| | 平成29年度 | | | | |
|-------|--------|-------|-------|--------|-------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 年度計 |
| 総合収益額 | 2,487 | 2,203 | 3,048 | ▲2,621 | 5,118 |
| 国内債券 | 20 | 95 | 99 | 106 | 320 |
| 国内株式 | 1,198 | 941 | 1,823 | ▲1,062 | 2,899 |
| 外国債券 | 443 | 245 | 145 | ▲468 | 365 |
| 外国株式 | 826 | 921 | 981 | ▲1,197 | 1,530 |
| 短期資産 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |

- (注1) 実現収益額は、売買損益及び利息・配当金収入等です。
- (注2) 収益額は、運用手数料控除後のものです。
- (注3) 総合収益額は、実現収益額に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
- (注4) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。



平成30年度 厚生年金保険給付組合積立金の資産の額

(単位：億円)

| | 平成30年度 | | | | | | | | | | | |
|------|--------|-----|------|--------|-----|------|--------|-----|------|-----|----|------|
| | 第1四半期末 | | | 第2四半期末 | | | 第3四半期末 | | | 年度末 | | |
| | 簿価 | 時価 | 評価損益 | 簿価 | 時価 | 評価損益 | 簿価 | 時価 | 評価損益 | 簿価 | 時価 | 評価損益 |
| 国内債券 | 277 | 284 | 7 | 277 | 281 | 4 | 278 | 285 | 7 | | | |
| 国内株式 | 187 | 220 | 33 | 183 | 229 | 45 | 186 | 189 | 3 | | | |
| 外国債券 | 119 | 115 | ▲5 | 121 | 117 | ▲4 | 121 | 114 | ▲7 | | | |
| 外国株式 | 159 | 189 | 30 | 163 | 206 | 43 | 164 | 174 | 10 | | | |
| 短期資産 | 42 | 42 | 0 | 68 | 68 | 0 | 35 | 35 | 0 | | | |
| 合計 | 784 | 850 | 66 | 813 | 901 | 88 | 783 | 796 | 13 | | | |

(参考)

(単位：億円)

| | 平成29年度 | | | | | | | | | | | |
|------|--------|-----|------|--------|-----|------|--------|-----|------|-----|-----|------|
| | 第1四半期末 | | | 第2四半期末 | | | 第3四半期末 | | | 年度末 | | |
| | 簿価 | 時価 | 評価損益 | 簿価 | 時価 | 評価損益 | 簿価 | 時価 | 評価損益 | 簿価 | 時価 | 評価損益 |
| 国内債券 | 310 | 317 | 7 | 296 | 302 | 7 | 288 | 295 | 7 | 289 | 296 | 7 |
| 国内株式 | 170 | 189 | 19 | 180 | 208 | 28 | 184 | 229 | 44 | 187 | 218 | 31 |
| 外国債券 | 101 | 97 | ▲4 | 106 | 105 | ▲2 | 113 | 112 | ▲1 | 114 | 108 | ▲6 |
| 外国株式 | 147 | 165 | 18 | 149 | 175 | 26 | 149 | 185 | 36 | 151 | 173 | 22 |
| 短期資産 | 58 | 58 | 0 | 77 | 77 | 0 | 52 | 52 | 0 | 73 | 73 | 0 |
| 合計 | 785 | 826 | 41 | 807 | 867 | 60 | 787 | 873 | 86 | 813 | 868 | 54 |

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 上記数値(平成30年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注3) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しております。

用語解説（50音順）①

- 厚生年金保険給付組合積立金
組合が厚生年金保険給付のため管理運用する積立金です。
- 実現収益率
運用成果を測定する尺度の1つです。売買損益 及び 利息・配当金収入等の実現収益額を元本（簿価）平均残高で除した元本（簿価）ベースの比率です。
- 修正総合収益率
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。実現収益額に資産の時価評価による評価損益増減を加え、時価に基づく収益を把握し、それを元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。
(計算式)
修正総合収益率 = { 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減（当期末未収収益 - 前期末未収収益）
+ 評価損益増減（当期末評価損益 - 前期末評価損益） } / （元本（簿価）平均残高
+ 前期末未収収益 + 前期末評価損益）
- 総合収益額
実現収益額に加え資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。
(計算式) 総合収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減（当期末未収収益 - 前期末未収収益）
+ 評価損益増減（当期末評価損益 - 前期末評価損益）

用語解説（50音順）②

○ ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を使用しています。団体共済部で採用している各運用資産のベンチマークは以下のとおりです。

1 国内債券

・NOMURA-BPI総合

野村證券株式会社が作成・公表している国内債券のベンチマークです。

※NOMURA-BPI総合は、その著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

株式会社野村総合研究所及び野村證券株式会社は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。

また、株式会社野村総合研究所及び野村證券株式会社は、当該指数に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該指数の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

2 国内株式

・TOPIX（配当込み）

東京証券取引所が作成・公表している国内株式のベンチマークです。

※TOPIX配当指数の指数値の標章は、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、指数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利及びTOPIX配当指数等の標章に関するすべての権利は東京証券取引所が有します。

3 外国債券

・FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE Fixed Income LLCが作成・公表している外国債券のベンチマークです。

※このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としておりFTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

4 外国株式

・MSCI ACWI（除く日本、円ベース、配当込み）

MSCI Incが作成・公表している日本を除く先進国及び新興国で構成された外国株式のベンチマークです。

○ ベンチマーク収益率

ベンチマークの騰落率、いわゆる市場平均収益率のことです。